(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第6436558号
(P6436558)

(45)発行日　平成30年12月12日(2018.12.12)　(24)登録日　平成30年11月22日(2018.11.22)

(51)Int.Cl.		F I		
A45B 25/24	(2006.01)	A45B	25/24	C
A45C 13/40	(2006.01)	A45C	13/40	A

請求項の数 5　(全 6 頁)

(21)出願番号	特願2014-109141 (P2014-109141)
(22)出願日	平成26年5月27日 (2014.5.27)
(65)公開番号	特開2015-223272 (P2015-223272A)
(43)公開日	平成27年12月14日 (2015.12.14)
審査請求日	平成28年2月2日 (2016.2.2)
審判番号	不服2017-8062 (P2017-8062/J1)
審判請求日	平成29年6月5日 (2017.6.5)

(73)特許権者　514132659
株式会社小倉貿易
大阪府大阪市淀川区西中島６－２－３
(74)代理人　100089152
弁理士　奥村　茂樹
(72)発明者　飯田　諭
大阪府大阪市淀川区西中島６－２－３　株式会社コウフク小倉内
(72)発明者　郭　暁泳
大阪府大阪市淀川区西中島６－２－３　株式会社コウフク小倉内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】鞄カバー兼傘カバー

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

全体が長方形状の布帛で構成され、該長方形状の布帛の左右短辺側の内側には袋体が設けられていると共に、該長方形状の布帛の中央近傍には該左右短辺と平行にスリットが設けられている鞄カバー兼傘カバーであって、

鞄カバーとなすとき、前記スリットは鞄の手提げ部を挿通する部位であり、前記布帛の左右は該鞄の両平面を覆う部位であり、

傘カバーとなすとき、前記左右短辺側の内側に設けられた、いずれか一方の袋体は、傘を収納する部位であり、他方の袋体は、該傘が収納された該一方の袋体と共に該他方の袋体に向けて巻回された前記布帛と該傘とを収納するための部位であることを特徴とする鞄カバー兼傘カバー。

【請求項２】

一対のスリットが設けられている請求項１記載の鞄カバー兼傘カバー。

【請求項３】

右短辺側に設けられた袋体の内側であって上長辺近傍及び下長辺近傍に面ファスナーの一方部材が縫着されており、左短辺側に設けられた袋体の上長辺部位及び下長辺部位には各々紐が縫着されていると共に、各紐の先端近傍に面ファスナーの他方部材が縫着されている請求項１記載の鞄カバー兼傘カバー。

【請求項４】

布帛が撥水処理された織物又は編物である請求項１記載の鞄カバー兼傘カバー。

【請求項５】
袋体は布帛を左右短辺で折り曲げて縫着することにより形成されている請求項１記載の鞄カバー兼傘カバー。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、晴天時には傘（特に折り畳み傘）を持ち歩きするためのカバーとして機能し、雨天時に傘を使用する際には鞄のカバーとして機能する鞄カバー兼傘カバーに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来より、傘には円筒状カバーが被覆されており、かかる形態で傘が販売され、また晴天時にはかかる形態で持ち歩かれている。そして、雨天時には、円筒状カバーを外して傘を差し、円筒状カバーは鞄に収納することになる。このとき降雨から、身体は濡れるのを防止しうるが、鞄は濡れるのを防止しにくいという欠点があった。そこで、本発明者等は、傘から外したカバーを、鞄に収納するのではなく鞄のカバーに使用できれば、かかる欠点を解消しうるとの着想を得て、その形態をどのようにするかを検討した。
【０００３】
特許文献１には、傘のカバーを、鞄本体として用いることが記載されている。すなわち、長方形状の防水性厚手生地からなるカバー体を幅方向の中央で折り返して対向する周縁部を締結可能に構成するとともに、カバー体の内面に防水性薄手生地からなる手提げバッグの底面部を縫い付け、手提げバッグを折り畳んで傘と共にカバー体で被覆できるようにしたバッグ付き傘カバーにおいて、前記カバー体の外表面に傘を収納可能なポケットを設けたことを特徴とするバッグ付き傘カバーと記載されている（特許文献１、請求項１）とおり、傘のカバーが手提げ鞄として機能するように構成されたものが記載されている。しかしながら、特許文献１には、傘のカバーを手提げ鞄等の鞄のカバーとして機能させようという本発明者等の着想がなく、また後述するように本発明者等のなした工夫に関しても何ら記載がない。
【０００４】
【特許文献１】特開平８－３８２２８号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
本発明の課題は、上記したように、雨天時において傘から外したカバーを、鞄のカバーに使用できるようにするとの着想を具体化することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上記着想を具体化するため種々検討した結果、以下の具体的構成からなる傘カバーを開発した。すなわち、本発明は、全体が長方形状の布帛で構成され、該長方形状の布帛の左右短辺側の内側には袋体が設けられていると共に、該長方形状の布帛の中央近傍には該左右短辺と平行にスリットが設けられている鞄カバー兼傘カバーであって、鞄カバーとなすとき、前記スリットは鞄の手提げ部を挿通する部位であり、前記布帛の左右は該鞄の両平面を覆う部位であり、傘カバーとなすとき、前記左右短辺側の内側に設けられた、いずれか一方の袋体は、傘を収納する部位であり、他方の袋体は、該傘が収納された該一方の袋体と共に該他方の袋体に向けて巻回された前記布帛と該傘とを収納するための部位であることを特徴とする鞄カバー兼傘カバーに関するものである。
【０００７】
図１は、本発明に係る鞄カバー兼傘カバーの表面図である。なお、表面図というのは、使用時に外側となる面の図である。本発明に係る鞄カバー兼傘カバーの形状は長方形状であり、その素材は布帛で構成されている。長方形状の布帛の中央近傍には左右短辺と平行

にスリット１ａ又は１ｂが設けられている。このスリットは鞄の手提げ部を挿通するためのものである。ビジネスマンの持つ鞄の多くは、鞄の手提げ部が２本のものであるため、このスリットは一対１ａ及び１ｂとして設けられているのが好ましい。布帛としては、織物、編物、不織布等が用いられる。また、雨水が内部に浸透しにくいように、撥水処理されてなる布帛を用いるのが好ましい。長方形状の大きさは、一般的に長辺の長さが６０～８０ｃｍ程度で、短辺の長さが３０～５０ｃｍ程度である。

【０００８】

図２は、本発明に係る鞄カバー兼傘カバーの裏面図（使用時に内側となる面の図）である。長方形状の布帛の左右短辺側の内側には袋体２ａ及び２ｂが設けられている。この袋体２ａ及び２ｂの口は、各々長方形状の布帛の中央に向けて開いている。袋体２ａ及び２ｂは任意の方法で形成しうるものであるが、一般的に、布帛の両短辺側を内側に折り曲げて、縫製することにより形成しうる。この袋体２ａ及び２ｂは、本発明に係る鞄カバー兼傘カバーが傘カバーとして機能しているとき、傘を収納するために用いられるものである。また、鞄カバーとして機能しているとき、必要に応じて新聞や雑誌等のその他の物品を収納するために用いうるものである。特に、雨天時において、屋内や地下通路等に入り傘を必要としなくなったとき、一時的に傘を収納するためにも用いうるものである。

【０００９】

袋体１ａの内側で上長辺近傍及び下長辺近傍であって、比較的中央よりに面ファスナーの一方部材３ａが縫着されていてもよい。この場合、袋体１ｂの上長辺部位及び下長辺部位であって、比較的中央よりに、各々紐４，４が縫着されている。そして、紐４，４の先端近傍に面ファスナーの他方部材３ｂが縫着されている。面ファスナーの一方部材３ａと他方部材３ｂとは、たとえば前者が雄材のとき後者は雌材であるという意味であり、前者が雌材のとき後者は雄材であるという意味である。面ファスナー及び紐４，４は、本発明に係る鞄カバー兼傘カバーが鞄カバーとして機能するとき、鞄カバーの裾同士を結合させ、鞄カバーが風等で煽られないようにするためのものである。

【００１０】

次に、本発明に係る鞄カバー兼傘カバーの使用方法について説明する。図４乃至図６は傘カバーとして使用する場合の方法を示したものである。図４は、鞄バー兼傘カバーを広げた状態の裏面図であり、傘１１（折り畳み傘１１）を袋体２ｂに収納した状態を示している。傘１１を袋体２ｂに完全に収納した後、収納した状態で左短辺側に向けて巻回してゆく。そして、袋体２ａの口に至った時点で、カバーで巻回された傘１１を袋体２ａの口に入れる。この状態を示したのが図５である。袋体２ａの中にカバーで巻回された傘１１を完全に収納した状態を示したのが図６である。そして、晴天時には図６に示した状態で鞄の中に収納しておけばよい。

【００１１】

図７は、本発明に係る鞄カバー兼傘カバーを鞄カバーとして使用した状態を示したものである。雨天の際には、鞄カバー兼傘カバーに収納された傘１１を取り出す。そして、鞄カバー兼傘カバーを広げて、その内側（裏面側）が鞄１２に当接するようにして被せる。この際、鞄１２の手提げ部１２ａをスリット１ａに通し、手提げ部１２ｂをスリット１ｂに通す。鞄１２の両平面をカバーで覆うと、袋体２ａ，２ｂはカバーの裾の位置にくる。袋体２ｂに縫着されている紐４を伸ばして、袋体２ａに縫着されている面ファスナーの一方部材３ａと紐４の先端近傍に縫着されている他方部材３ｂを結合する。これによって、鞄１２を覆うことができ、雨天時において鞄１２が濡れるのを防止しうると共に、風等でその裾が煽られるのを防止しうる。なお、雨天が晴れて傘１１が不要となったときには、鞄１２にカバーをしたままで、袋体２ａ又は２ｂ内に傘１１を収納してもよい。本発明に係る鞄カバー兼傘カバーは、鞄１２の両平面を覆ったときも、その両側面は覆われていないので、側面から手を差し入れて、傘１１を袋体２ａ又は２ｂ内に収納することができるのである。また、袋体２ａ又は２ｂには、新聞や雑誌等を収納することもできる。

【発明の効果】

【００１２】

本発明に係る鞄カバー兼傘カバーは、晴天時には傘カバーとして機能し、雨天時において傘から外したときには、鞄カバーとして機能しうるという便利なものである。

【図面の簡単な説明】

【００１３】

【図１】本発明の一例に係る鞄カバー兼傘カバーの表面図である。

【図２】図１に示した鞄カバー兼傘カバーの裏面図である。

【図３】本発明の他の例に係る鞄カバー兼傘カバーの裏面図である。

【図４】図３に示した鞄カバー兼傘カバーの袋体２ｂに傘を収納する状態を示した裏面図である。

【図５】袋体２ｂに収納した傘を、袋体２ａ側に向けて巻回した後に、袋体２ａに収納する状態を示した図である。

【図６】袋体２ａ内に傘が完全に収納された状態を示した図である。

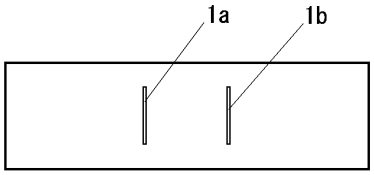
【図７】図３に示した鞄カバー兼傘カバーを鞄カバーとして用いた状態を示した図である。

【符号の説明】

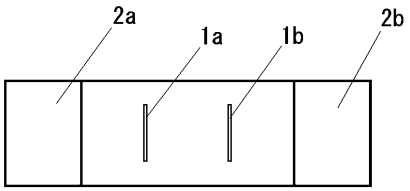
【００１４】

１ａ，１ｂ	スリット
２ａ，２ｂ	袋体
３ａ，３ｂ	面ファスナーの一方部材と他方部材
４	紐
１１	傘（折り畳み傘）
１２	鞄

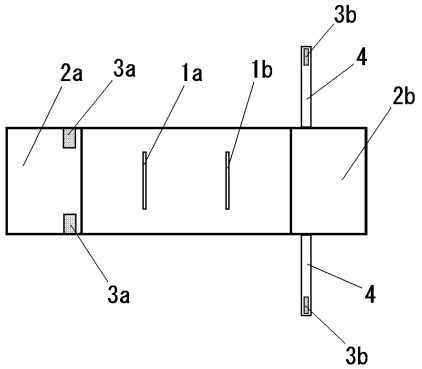
【図１】



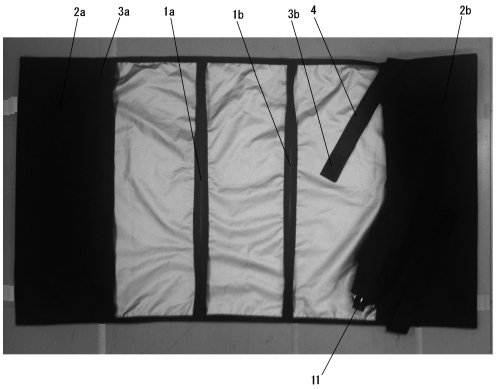
【図２】



【図３】



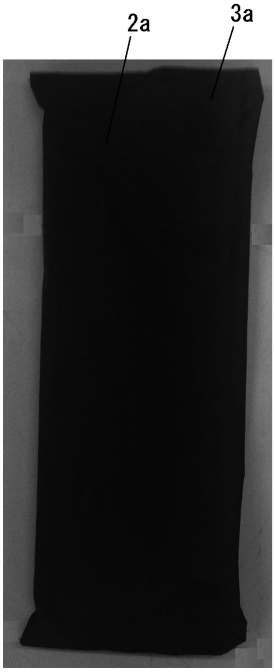
【図４】



【図５】



【図６】



【図７】



フロントページの続き

合議体
審判長　藤井　昇
審判官　山村　和人
審判官　矢島　伸一

(56)参考文献　実開昭６１－８６０２４（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５９－１９４８２２（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５３－９８００４（ＪＰ，Ｕ）
登録実用新案第３１１２５９７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５１－２０８１８（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５０－１５８０１５（ＪＰ，Ｕ）
登録実用新案第３０５６８７５（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A45B 1/00 - 27/02
A45C 1/00 - 15/08